

ブロックチェーン

最近、仮想通貨「ビットコイン」に関する話題を耳にします。このビットコインは「ブロックチェーン」という技術に支えられています。ブロックチェーンの歴史は浅く、誕生から10年も経っていませんが、この技術は、近年、急速に注目を集めるようになりました。それはなぜか、そこにはビットコイン誕生の裏に隠された考案者の「ある想い」が関わっています。今回はブロックチェーンの誕生秘話と、今後どこへ向かっていくか、についてご紹介いたします。

ビットコインは2008年11月に暗号技術者が加入するメーリングリストにおいてサトシ・ナカモトと名乗る謎の人物が発表した論文「Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System」(ビットコイン:P2P電子マネーシステム)から始まりました。なお彼はこの論文ではブロックチェーンという言葉を使っていませんでした。しかし、ビットコインを実現するために誕生したこの技術は、トランザクションを保存したブロックがハッシュ値^{*1}という鎖(チェーン)でつながっているように見えるその構造から、ブロックチェーンと呼ばれるようになりました。

翌年1月3日にビットコインのシステムが稼働し、最初のブロック(ジェネシス・ブロック)が生成されました。このブロックには、サトシ・ナカモトの言葉が刻まれています。それは以下のような言葉です。“The Times 03/Jan/2009 Chancellor on brink of second bailout for banks”、この言葉はイギリスの新聞Times紙の2009年1月3日の記事から取ったもので、「イギリスの首相が2度目の銀行救済措置をとる」と書かれています。ここから彼の思想が読み取れます。

ビットコインの論文が発表された同年に起きたリーマンショック。これは銀行が引き起こしたにもかかわらず特に罰則はなく、むしろ政府は銀行救済に資金を投入し、世界的に大きな反発を招きました。サトシ・ナカモトは、経済に政府という中央組織が介入するこ

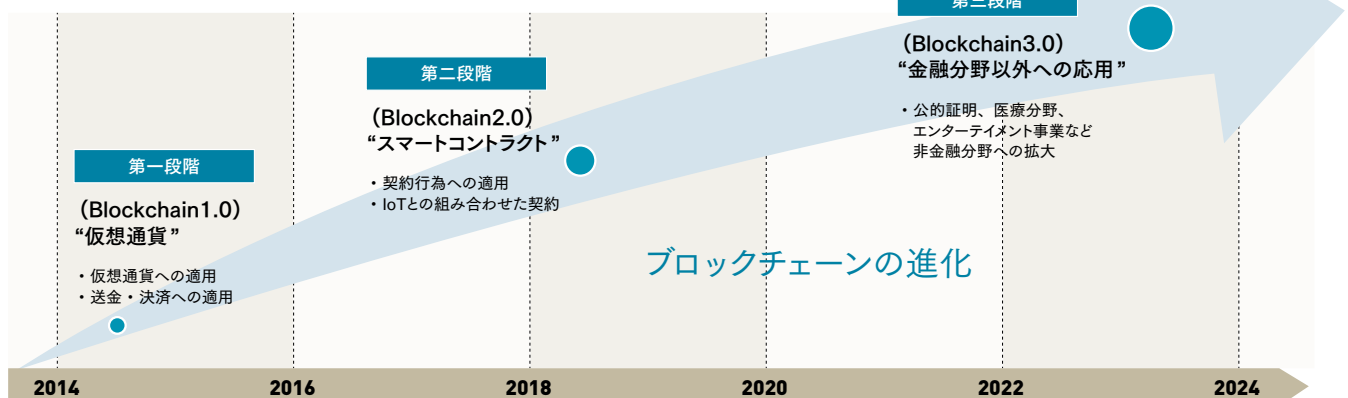
とに危機感を抱いたのでしょう。そこで、中央組織の存在を不要とした、個人間で取引を行う分散化された金融システムを実現しようとビットコインを考案します。この「中央組織の存在を不要にする」というのが彼の思想です。ジェネシス・ブロックに上記の言葉を刻んだのは、その意思表示だと推測されています。

このサトシ・ナカモトの思想に触発された世界中の技術者によって、金融分野以外の領域でもブロックチェーンを使い、より広い領域で分散化された社会を実現しようという機運が高まります。その技術者のひとりが、ヴィタリック・ブテリン、通貨以外の用途でも使えるブロックチェーンのひとつである「イーサリアム」^{*2}の考案者の一人です。このイーサリアムで今、活発に行われているのがICO^{*3}です。ICOによって、証券会社を仲介することなく、起業家は多くの投資家から直接資金を集めることができました。

しかし、このICOは分散型社会の実現に向けた第一歩に過ぎません。今後もブロックチェーンは、「分散型」をテーマに世界中の技術者を惹きつけ、発展していくことでしょう。

インテックも、社会を大きく変革する可能性を秘めているブロックチェーンに黎明期である今から積極的に取り組むことで、お客さまのビジネス加速と、社会課題の解決に貢献してまいります。

FinTechとブロックチェーン 出典：「フィンテック金融維新へ」(アクセントチャプ著)



*1 データ比較処理の高速化、あるいは改ざんの検出に使われる値。

*2 2015年7月30日に稼働したブロックチェーン。ビットコインとは異なり、さまざまな契約に対して、スマートコントラクトが実行できる分散型アプリケーション基盤。

*3 Initial Coin Offeringの略。企業が独自の仮想通貨を発行し、それを売ることによって資金調達をする方法。仮想通貨を使ったIPO (Initial Public Offering：株式公開) のこと。